

神は愛だから

シリーズ～さよならキリスト教～

2024/2/4

今年の聖句

神は、すべての人々が救われて真理を知るようになることを望んでおられます。神は唯一であり、神と人との間の仲介者も、人であるキリスト・イエスただおひとりなのです。この方はすべての人の贖いとして御自身を献げられました。これは定められた時になされた証しです。

テモテへの手紙一2章4～6節

神が望んでおられる事

- すべての人が**救われる**こと
 - ・救われるとは、創造主との関係が回復されること
- すべての人が**真理**を知るようになること
 - ① 神は**唯一**であること
 - ② 神の独り子であるキリスト・イエスだけが神と人との間の**仲介者**であること
 - ③ キリストは「すべての人の**贖い**として御自身を献げられ」たということ

なぜ神はわたしたちの贖いとして
独り子を殺されたのか？

ヨハネの手紙一4:8~10

愛することのない者は神を知りません。
神は愛だからです。神は、独り子を世にお遣わしになりました。その方によって、わたしたちが生きるようになるためです。ここに、神の愛がわたしたちの内に示されました。わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。

それは神が愛だから

- 神は人間を滅ぼすこともできた
 - 「罪の支払う報酬は死である」
- しかし神はそうされなかったばかりか、「御子をお遣わしに」なり、「わたしたちの罪を償ういけにえ」とされた
 - 私たちではなく御子を滅ぼされた
- そうされた理由はただ一つ、「**神は愛だから**」
 - 「わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して」下さった

「愛」とは何か？

- 聖書が教える「愛」とは、自分が損をしても誰かを幸せにすること(犠牲を払う)
 - 仏教では「人や物に囚われ執着すること」
- 人間は親になると自然に(無条件に)わが子を愛する
 - わが子のためならどんなことともいとわない
- 「愛することのない者は神を知りません」
 - 逆に言えば、愛することを知っている者は神を知っている、ということになる
 - 親の愛が分かる人は神が分かるはずである

「愛」とは何か？

- 聖書が教える「愛」とは、自分が損をしても誰かを幸せにすること(犠牲を払う)
 - 仏教では「人や物に囚われ
- 人間は親になると自然に()
を愛する
 - わが子のためならどんなことともいとわない
- 「愛することのない者は神を知りません」
 - 逆に言えば、愛することを知っている者は神を知っている、ということになる
 - 親の愛が分かる人は神が分かるはずである

なぜそうなるのか
誰も説明できない！

「愛」は神の「かたち」である

- 神は人を「ご自分にかたどって」造られた

- 神は人に人格と自由意志を与えられた
- 神は人に「愛」を与えられた

- 愛は理屈（計算）を超える

- 人は本来、自己中心的で、計算高く、自分の利益を優先する（そうでないと破産する！）
- しかし、特定の相手に対しては喜んで犠牲を払うし、それを幸せだと感じる
- 人は互いに殺し合うが、他人のためにも死ぬる
- そんな気持ちを持っているのは人だけである！

愛は行動によってのみ伝わる

- 言葉だけなら何とでも言える
 - 行いの伴わない愛は愛とは言えない
- 神は実際の行動で愛を示された
 - 「**独り子**」は人にとって最も大切なもの
 - その最も大切なものを「わたしたちの罪を償ういけにえ」とされた
 - 「**友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。**」(ヨハネ15:13／キリスト)
- 十字架は**神の愛の証し**である
 - 神の愛は疑う余地がない！

今年の聖句

神は、すべての人々が救われて真理を知るようになることを望んでおられます。神は唯一であり、神と人との間の仲介者も、人であるキリスト・イエスただおひとりなのです。この方はすべての人の贖いとして御自身を献げられました。これは定められた時になされた証しです。

テモテの手紙—2章4～6節

神の愛の